

幕末・明治を生きた女流画家

和歌山市立博物館

令和8年度秋季特別展

川合 小梅 の世界

かわいこうめ

時代を記し、
日々を描く

2026
10.31^①-12.6^②

講演会 (2階講義室/14:00~15:30/定員80人/申込不要/要入館料)

11/3 (火・祝) 「『小梅日記』に見る幕末女性の生活」

奈良大学文学部教授 村上 紀夫氏

11/21 (土) 「川合小梅の明治期の活動」当館学芸員 山下 奈津子

12/5 (土) 「幕末明治の女性画家・川合小梅の画業」

学習院大学文学部教授 近藤 壮氏

展示解説 11/7 (土)・11/29 (日) (2階特別展示室/14:00~15:00)

入館料：一般・大学生 700 円 (団体 560 円) 高校生以下 無料

※和歌山市が発行する老人優待利用券をお持ちの方は本人のみ無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介護人は無料

※団体割引は20人以上

開館時間：9:00 ~ 17:00 (入館は16:30 まで)

休館日：月曜日 (祝日の場合は開館)、祝日の翌日

和歌山市立博物館

WAKAYAMA CITY
MUSEUM

〒640-8222 和歌山市湊本町3-2

TEL 073-423-0003

<http://www.wakayama-city-museum.jp/>



11/14^①
11/15^②

関西文化の日

11/22^③

和歌山県ふるさと誕生日

入館無料



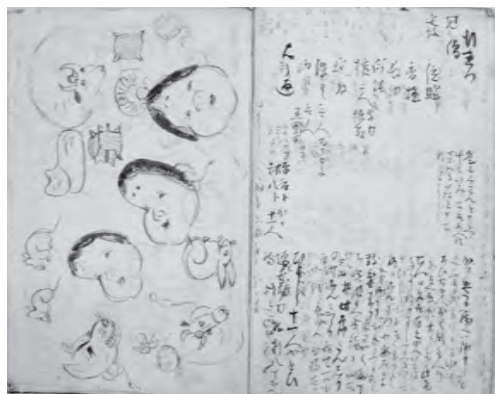
川合小梅筆 菊見官女図 (和歌山県立博物館蔵)

幕末・明治を生きた、ある女流画家のまなざし

日記と絵画からたどる 川合小梅の「世界」

川合小梅（1804～89）は、紀州藩に仕える儒学者の家に生まれました。彼女は、夫を支え、家庭をマネジメントし、母と和歌を楽しみ、子どもや孫を育てました。また、絵を描くことを好み、周りの人々の依頼を受けて、肖像画や節句の飾りとなる絵画をたくさん描きました。その作品は、小梅の友人・知人の生活を彩ったことでしょう。なぜ小梅の生活ぶりがわかるのでしょうか？それは彼女が日記を書いていたからです。自分の身の回りで行った出来事を記し、さらに、激しく時代が変わる幕末の事件の数々を書き残しました。小梅の日記は、当時の和歌山における人々の暮らしぶりや感じていたことを伝えてくれます。

本展覧会では、小梅の日記をとおりて幕末・明治期の和歌山の様子を見渡すとともに、画家としても活躍した小梅の作品を紹介します。激動の時代を見つめながら日々の生活を大切に生きる、川合小梅の「世界」をお楽しみください。



小梅日記（和歌山県立図書館蔵）



川合小梅写 環海異聞（和歌山県立文書館蔵）



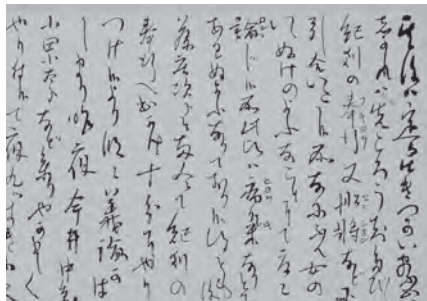
川合小梅筆 観梅円窓美人図（館蔵）



大塩平八郎肖像（部分／大阪歴史博物館蔵）

大塩平八郎の乱

天保八年二月二十日
(1837)
新道全見や五兵衛妻来ル、
大坂大火乱ぼうの由語る、
三井・こうの池など焼たる由、
…大塩平八ノあれ、
（「小梅日記」より）



おりょう宛 坂本龍馬書状（坂本龍馬・海援隊士書簡類（部分）／京都国立博物館蔵）

坂本龍馬暗殺

慶応三年十二月七日
(1867)
土州藩才谷梅太郎、実名八坂本
龍馬と云者、家来藤吉…石川某
…右三人切殺さる、
（「小梅日記」より）



川合小梅筆 花卉図

（貼交屏風（部分）／個人蔵）



川合小梅筆 八幡太郎図（館蔵）

全国的な絵画展に出品

明治十五年八月九日
(1882)
絵画共進会へ出品之儀、畏居
候、…官女花を見之図一枚、
又玉堂富キ一枚…差出可申候、
（「小梅日記」より）

（「小梅日記」より）

和歌山市立博物館

WAKAYAMA CITY MUSEUM

〒640-8222 和歌山市湊本町3-2

Tel. 073-423-0003

<http://www.wakayama-city-museum.jp/>



和歌山市立博物館

最新の情報は当館のホームページでご確認ください。

アクセス

南海電鉄和歌山市駅から南西へ徒歩5分

JR和歌山駅から和歌山バス乗車、南海和歌山市駅下車、徒歩5分

